

## 発表テーマ

### 「イキイキと生活出来る環境作り～やれること・やりたいことを増やしていこう」

事業所所在地：愛知県碧南市鴻島町4-50

法人名：社会福祉法人百陽会グループホームアルカール碧南

発表者氏名：2階介護リーダー・田中恵輔

#### 【背景・令和4年のコロナ禍において】

私達のグループホームではお手伝いを中心とした様々なアクティビティを展開しています。

生活の中で役割を持って頂き、存在価値を感じて頂くというケアを意識しながら、取り組んでいます。

「やって下さいね、お願いします」とのスタッフからの声掛けがなくとも、自然と、自主的に集まってこれ、家事をこなされます。



利用者様どうしの会話も自然と生まれ、とても上手くいっていると感じています。

しかしながら、当時はコロナ禍もあり、以前より利用者様が楽しめる機会や環境が大きく減少していました。

そこで、新しい発想・取組が必要であり、利用者様が主体的に「やれること・やりたいこと」を増やし、コロナ禍であっても、イキイキとした生活を送ってほしいと私達は考えました。

#### 【事例紹介】

利用者様とヒアリングを実施し、利用者様の想いや希望に沿う形で取り組んでみた。

その取り組みを進めていく中で、利用者様の新たな長所・可能性を発見し、また利用者様どうしの人間関係も変化を見せ始めた。

#### 【倫理的配慮】

管理者も協力し、ご本人・ご家族様へ同意を依頼・了承を得ている。

#### 【取組の様子】

令和4年コロナ禍で外出・面会など様々な自粛が続く日々の中、利用者様に「負の気持ち」が増殖しているように感じていた。

そして、利用者様には毎日お手伝いなどが出来る元気な利用者様ばかりではなく、スタッフからの懸命なアプローチを受けてやっと笑ってくれる方・食事以外は居室にこもる方、「まー、家に帰らせてもらおう」と毎日のように訴えが続く方。そんな利用者様もいらっしゃるのが現状です。

コロナのための自粛が追い打ちをかけるように、その方達にも暗い影をおとしていたように感じます。現場においても、何か取り組む必要があると強く感じていました。



●私達に「何か」を気付かせてくれた【ベランダでの納涼祭り】

そのような中、令和4年の夏に2階のベランダに出て「納涼祭り」を開催しました。すると、普段表情の優れない方の目が途端にキラキラと輝き始め、イキイキとした表情になられていく様子を目のあたりにし、大変驚きました。



「いつもと何が違うのか?」「飾り付け?盆踊りの曲?」・・・

「そうだ!風だ、空気だ!外の風に当たり、空気を吸って気持ちがフッと爽やかになり、楽しみを倍増させたのではないかと私達は気付くのです。

●利用者様主体の話し合いを行い、【思い(想い)を伺う】

利用者様と様々な形でヒアリングを行い、利用者様の思い・希望に沿う形で取り組んでみました。

ここで気を付けた事が1つ、それは取り組み自体が「スタッフ主導」にならないようにすること。つついあせって何かとスタッフ側が決定したほうがスムーズに運びはしますが



- ・利用者様主体を第1に考える
- ・利用者様のペースで取り組んでいく
- ・スタッフは出来るだけサポート役に徹する
- ・ゆっくりと少しずつ

利用者様の様々な思い・過去の生活歴、そしてご家族様にもヒントを頂き、最終的に施設裏側の雑草の生えたスペースを活用して土を耕し野菜を作り、収穫した野菜で鍋パーティーをやろう、という目標をたてる事ができました。碧南人である利用者様は、畑作業の経験のある方ばかり。

●目標を目指し 【いざ!実践】

それにしても施設の裏側は雑草がのびきり、うっそうとしています。



利用者様と一緒に草むしりから、巨木のせん定、石拾いなど時間を作っては作業を進めます。職員より熱心な利用者様の姿です。時には管理者にも汗を流して頂きました。



「道具が足りないわね」と利用者様から意見が出れば買い物客の少ない時間帯に合わせ買い物に行きました。



丹精込めて育てた大根を収穫する利用者様。とてもイキイキとされてます。



・私達の予想以上の利用者様のやる気が伝わり、業者を頼むことなく、無事に畑を整備することができました。

●11月8日 【とうとう念願の野外鍋パーティー】

当日の朝から、材料にする野菜の収穫を行う方、調理を手伝う方など出来るだけ利用者様には役割を持って頂き



当日はワイワイガヤガヤと協力しながら準備をやりました。

青空の下、みんなでブルーシートを広げ楽しむ事が出来ました。



この女性利用者様は左半身麻痺と言語障害があり、表情が乏しいのですがブルーシートに寝転がって頂くとこんな素敵な笑顔を見せてくれました。



外の空気に触れることの意味の大きさを再確認した瞬間でした。食事の後は利用者様には思い思いの行動を取って頂きました。おしゃべりをされる方、自分から野菜を収穫し始める方・人の想いは様々です。

「灯台下暗し」という言葉がありますが、今までコロナの為に外出出来ない、楽しい事がないと思いがちで来たのですが、気付いてみればこんな目の前に身近に楽しめることがあったのです。利用者様全員のイキイキとした笑顔が引き出されたことが「一番のうれしさ」ですが、取り組みの中で役割を持って頂いた利用者様の新たな個性・長所に気付くことが出来ました。この取り組みは利用者様の笑顔を引き出す第1歩となったのではないかと考え、スタッフ主導ではなく、利用者様主体・利用者様のペースで今後も取り組んで参りたいと思います。協力して頂いたスタッフのみなさんにも大変感謝しております。

#### 【取組の経過】

- ① 利用者様へのヒアリングとアセスメント②カンファレンス・委員会での情報共有と意見交換
- ③ 施設長・管理者への確認と内容の決定④事例への取り組み⑤状況の把握と修正⑥評価・反省・今後の課題⑦新たな目標と挑戦

#### 【その後・・・アフターコロナの現在と新たな挑戦】

現在は引き続き感染対策を行いつつも、面会・外出等が解禁となりました。利用者様・ご家族様の笑顔を見るたびに嬉しい限りではありますが、私達はこのコロナ禍の3年間を経験したからこそ、事業所として新たに出来る事があると考えています。利用者様のお話しや意思表示が難しい方には過去の生活歴やそのご家族様にもお話を伺い、「利用者様の思い出の場所への外出」を展開中です。利用者様の行きたい、思い出の場所・・・そこに行けば誰でもない、利用者様が自ずと主人公になり得るのです。そこにはコロナ禍で一時期とはいえ分断された利用者様と地域との繋がりを感じてほしいという私達の想いも含まれております。最後に利用者様の「思い出の場所への外出」での最高の笑顔をお伝えさせていただきます。

Ｙ様（女性・99歳）以前売り場にも出ていた実家のお店にて

